

## 今日のみ言葉 274 「主は、そのすべての道において正しく」

2017.12.11

主は、そのすべての道において正しく、そのすべての御業の中には、慈しみがある。

The LORD is righteous in all His ways, Gracious in all His works.

人間は、過ちに満ちた存在である。本当の正しいありかた、真実や愛によって、いつも生きるということは到底できない。

いかなる偉人とされている人でも、その深い魂の奥には、人間的なあまりにも人間的な部分があり、そのような部分に接したときには、人間とは本当に弱きもの、罪深きものだと知らされるであろう。

キリスト教の二千年の歴史において、最大の働きをしたパウロそれは彼が受けた啓示が新約聖書の重要部分を占めていることからわかる—そのパウロさえも、自分自身のなかに、どうしても正しく真実な生きかたができないのを思い知らされている。

パウロは、「善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいる。」と述べ、「わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。」（ローマの信徒への手紙7の24）と言っているほどである。

そのような人間に対して、そのすべての道において正しい御方とは、ただ神だけ、そして神のすべてを受けているキリストのみである。

そうした絶対的基準を私たちは与えられている。人間は、どうしても自分を認められたい、自分がほめられたい—等々の自分中心の心が深く宿っているが、そうした世界と根本的に異なるのが、神の道である。それは聖書に指し示されている道として、万人がいつでもそこに立ち返ることができる。

また、私たちの周囲にひろがる自然とは、そのような神の創造の業であるゆえに、いつもそこには、神の慈しみ、愛がある。冬の厳しい寒さのなかにも、また暑い夏のさまざまな自然の姿、そして広大な海の広がりやその色合い、また大波のとどろき、星々の輝き等々—通常はそこに慈しみや愛があるとは考えられていないようなものもすべてそこには神の慈しみ、愛がある。

そうした自然そのものだけでなく、人間の歴史に起こっていく数々の出来事にも、それらは全体としては、神のわざであるゆえに、時代を超え、場所を問わずにそこに神の慈しみがある—それがこの数千年前に、この詩をつくった人が受けた啓示であった。

このようなことは、人間の思想や思いでなく、神の啓示であり、表面的に見える現象だけを見て、人間の思いや考えだけで見るならば、到底そこに神の慈しみがあるなどと思えない。

そうした状況においてこそ、信仰が必要となり、その信仰によって与えられる聖霊こそが、そうした謎のようなこの世界に根源にある真実を教えてくれるものとなる。「聖霊が、すべてのことを教え、私が話したことをことごとく思い起こさせる。」



これは、北海道の小樽から、南西部の瀬棚地方に向う途中の海岸での撮影です。

アサツキとはネギの仲間野菜として栽培もされている植物ですが、このように海岸近くや山野の一部にも自生しているものなのです。

このアサツキは、絶壁の岩の上に自生していたもので、日本海のひろがる広大な風景を眼下にするとこころです。ここは、こうした崖であり、ここに至る道筋も危険なので、この花に気づく人はごく少ないと思われます。この火山性の礫岩の上であって、激しい潮風や、冬の吹雪が吹きすさぶ岩の上にこのような可憐な花が根付いていることに驚かされます。

人間も動物もこうしたところでは生きていけないところですが、この植物は、その厳しさに耐えて太古の昔からここに根付いてきたのであり、その生きる強靱な力を感じさせられたことです。

草は弱々しいもの一引き抜けばすぐに枯れてしまうし、滅びてしまう。他方、そのような弱いと見えるものに、こうした樹木も育たず、動物たちも生きられないような厳しい環境でも生きていく力が与えられています。

神は、弱いところに力を表される、ということがこのような自然のなかにも見られるのです。

「わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。」(コリント12の9)と、キリストが使徒パウロに語りかけた言葉を思い出します。